

26年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/12月	27年1月	2月
伐採動向	スギ	16.7	0.0	8.3
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	25.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持立木在庫動向	スギ	12.5	12.5	△ 12.5
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギの伐採は12月の増加、27年1月の横ばいを経て2月は再び増加に、ヒノキは12月の増加の後27年1月、2月は減少、カラマツは12月の横ばいが27年1月、2月は大きく減少。エゾ・トドは3ヵ月連続して増加。
・スギの出荷・販売は12月の増加が27年1月、2月は横ばいに、ヒノキ及びカラマツは12月の横ばいから27年1月、2月は減少に。エゾ・トドは3ヵ月連続して増加。
・スギの立木在庫は12月、27年1月の増加から2月は減少に、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・当月はカラマツ間伐の請負事業があったためカラマツが増加、トドマツ間伐の立木販売現場も始まり伐採はやや増加の傾向。
- ・スギ、カラマツは前月に引き続き伐採控えめ。
- ・スギ、ヒノキ間伐事業地12月中旬で終了、早い降雪。
- ・スギ、ヒノキで皆伐と間伐の2現場作業中。
- ・国有林請負が完了するので伐採は増加の見通し、出材・販売はやや増加する。

(出材・販売動向)

- ・カラマツの出材は請負を受注したため当月は増加、トドマツの出材はやや増加で推移。ただし、需要はあるものの運材車が足りないため販売に苦慮している。
- ・スギ、カラマツともに弱含み（秋田県では品不足で高値と聞くが当県では上げるに至ってない）。

(手持立木在庫)

- ・トドマツ、カラマツは伐採量の分だけ立木在庫は減っている。立木在庫に余裕があるので国有林の立木公売に適地がある場合は応札して立木を確保しておく予定。
- ・スギ、ヒノキとも立木買入れ控えめ。